

路線番号		1	路線名	桑名阿下喜(B)	
起点—経由地—終点			桑名駅前—新西方—阿下喜		
通過市町村（H13. 3. 31 現在の市町村名）			桑名市—東員町—いなべ市 （員弁町・北勢町）		
キロ程（km）		25. 4	運行回数（回/日）	13. 6	
沿線施設	高校	桑名工業高校、桑名高校、いなべ総合学園			
	病院(20 床以上)	いなべ総合病院、日下病院、桑名西医療センター、桑名南医療センター、桑名東医療センター、青木記念病院、森栄病院			
	その他	三重県桑名庁舎、桑名市役所、いなべ市役所（北勢庁舎、員弁庁舎）東員町役場			
幹線とする必要性		桑名駅から郊外の住宅団地を経由して、阿下喜駅を結ぶ路線であり、沿線居住者の通勤・通学や沿線に立地する高校の生徒の通学、中心市街地への買物等の利用に不可欠。			
平成 29 年度運行状況		輸送量※ ¹ （補助対象となる輸送量：15～150 人）			
		H29 年度目標 (H27 年度実績)		H29 年度実績	実績－目標
		43. 5 人		44. 8 人	1. 3 人
		輸送人員（平均乗車密度）※ ²			
		H28 年度実績		H29 年度実績	H29 年度－H28 年度
		114, 847 人（3. 1 人）		120, 824 人（3. 3 人）	5, 977 人（0. 2 人）
		収支状況			
		経常費用		経常収益	経常収益－経常費用
		87, 715, 037 円		38, 999, 794 円	▲48, 715, 243 円
		接続する地域内フィーダー系統の状況			
		路線名	H28 年度利用者	H29 年度利用者	H29 年度－H28 年度
		東員町：南北	人	66, 883 人	人
		東員町：南北急行	H28. 10 路線 人	18, 970 人	人
		東員町：東部	見直し 人	12, 798 人	人
		東員町：東部急行	人	2, 509 人	人
		合 計	112, 705 人	101, 160 人	▲11, 545 人
生産性向上のための 利用促進策 【実施主体】		・通学定期券チラシ配布（桑名高校、桑名工業高校）【三重交通】 ・バスロケーションシステムの導入検討【三重交通】 ・全日ダイヤ統一（旅客認識向上）【三重交通】			
県 の 意 見		・輸送量目標 43. 5 人に対し、実績 44. 8 人（1. 3 人増）となり、目標は達成できた。輸送人員についても前年度実績に比べて、5, 977 人増加しており、三重交通等で取り組まれている利用促進策は一定の成果があったものと思われる。 ・当該路線は郊外の住宅団地を経由して、駅間を結んでおり、沿線には高校、病院も多く、通勤、通学のほか、買物利用も多い。今後も安定的に維持されるよう、地域住民のニーズの把握に努め、接続するコミュニティバスの利便性向上等につながる利用促進策等を検討する必要がある。 【評価：A】（定量的目標以上の輸送量を達成した路線）			

関係市町の意見

【東員町】

本町の地域特性として、北部に町人口の約 5 割が集中する住宅団地が広がり、中部に三岐鉄道北勢線（東員駅、穴太駅）と南部に三岐鉄道三岐線（北勢中央公園口駅、本町に隣接）が運行されている。こうした背景から本町のコミュニティバス（オレンジバス）の路線は、南北に縦断している。

桑名阿下喜線は、本町の東西を横断しており、北勢線とともに地域住民の桑名市、いなべ市へのアクセスを可能にする重要な路線であり、東西に運行する当該路線と南北に運行する本町コミュニティバス、鉄道路線は共存を図ることができるものと考えます。

平成 29 年度は当該路線の輸送人員、北勢線の輸送人員ともに増加しており、住民の桑名市、いなべ市など交通圏での移動が盛んになっている。引き続き地域住民のニーズを把握し、現状に即した利用促進に努める必要がある。

【桑名市】

- ・該当幹線は本市の主要幹線の一部である。
- ・本市内では、三岐鉄道北勢線と並行している箇所もあるが、郊外団地と桑名駅との通勤・通学での利用が多い

【いなべ市】

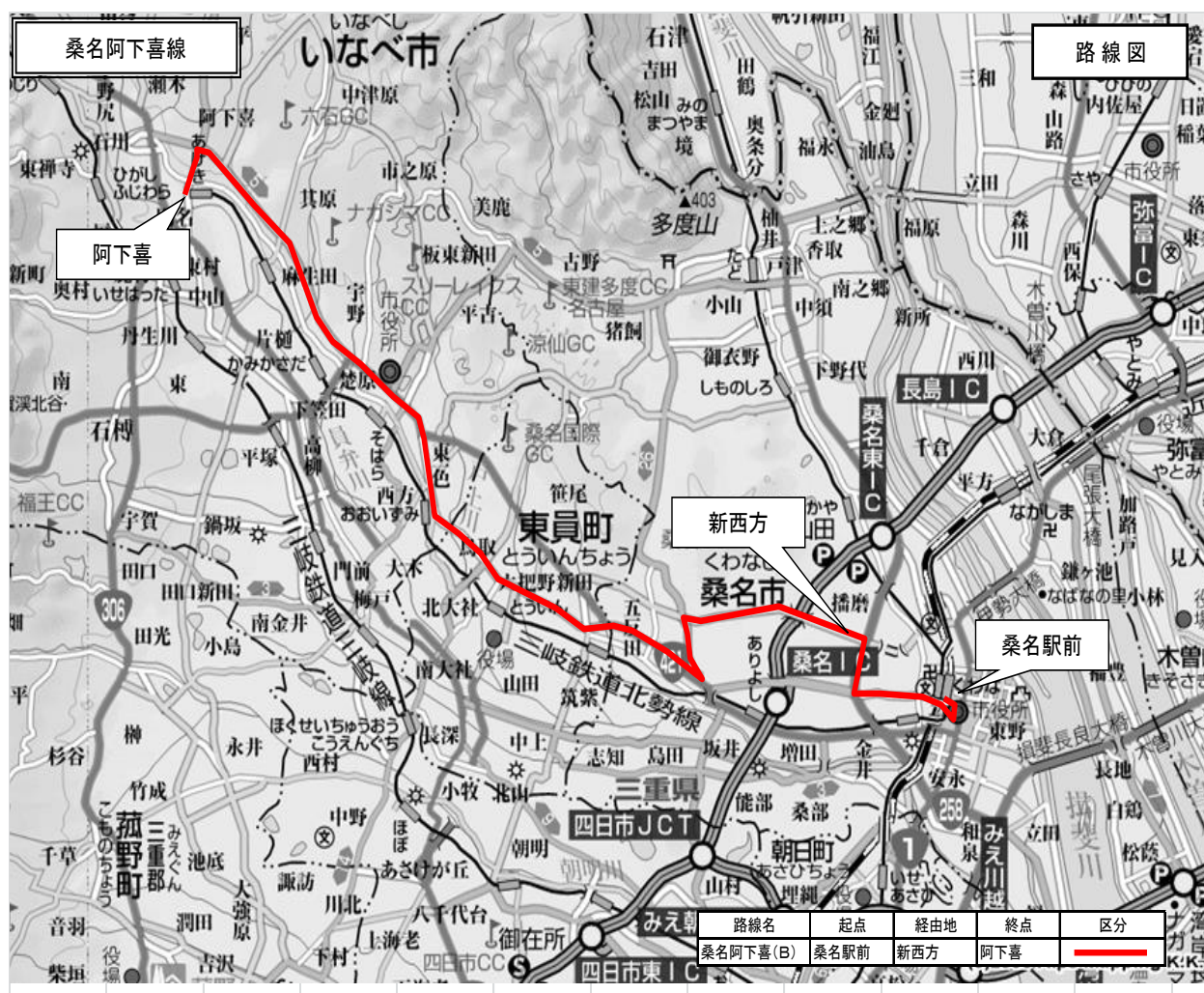
沿線住民の通勤、通学、高齢者の通院や買い物等の重要な交通手段であると認識している。

全体的に全ての公共交通機関の利用者が減少傾向となっている中で、輸送人員の増加は利用促進策の有効性を示している。

しかし、当市のバス路線においては、三岐鉄道北勢線と重複路線となっているため、市単独での利用促進は困難である。

※ 1 輸送量＝平均乗車密度〔人キロ÷実車キロ〕×運行回数

※ 2 平均乗車密度＝人キロ÷実車キロ



路線番号		4 7	路線名	梅戸 (B)
起点—経由地—終点			桑名駅前—伊坂台—桑名西高校	
通過市町村 (H13. 3. 31 現在の市町村名)			桑名市—四日市市	
キロ程 (km)		12. 8	運行回数 (回/日)	10. 9
沿線施設	高校	桑名西高校、桑名高校		
	病院 (20 床以上)	桑名南医療センター、桑名東医療センター、青木記念病院、森栄病院		
	その他	三重県桑名庁舎、桑名市役所		
幹線の必要性		桑名駅から四日市市郊外の住宅団地や桑名西高校を結ぶ路線であり、沿線居住者の通勤・通学や沿線に立地する高校の生徒の通学等の利用に不可欠。		
平成 29 年度運行状況		輸送量 ^{※1} (補助対象となる輸送量 : 15~150 人)		
		H29 年度目標 (H27 年度実績)	H29 年度実績	実績—目標
		56. 6 人	61. 0 人	4. 4 人
		輸送人員 (平均乗車密度) ^{※2}		
		H28 年度実績	H29 年度実績	H28 年度—H27 年度
		98, 873 人 (5. 3 人)	104, 208 人 (5. 6 人)	5, 335 人 (0. 3 人)
		収支状況		
		経常費用	経常収益	経常収益—経常費用
		36, 944, 906 円	30, 822, 382 円	▲6, 122, 524 円
		接続する地域内フィーダー系統の状況		
		路線名	H28 年度実績	H29 年度実績
		なし		
生産性の向上のための 取組内容 【実施主体】		・通学定期券現地販売 (桑名西高校) 【八風バス】		
県の意見		・輸送量目標 56. 6 人に対して、61. 0 人の実績となり、目標を達成できた。輸送人員も前年度実績から大幅に増加しており、利用促進策の取組は一定の効果があったと思われる。 ・当該路線は、沿線住民の通勤目的、通学目的の乗車が平日利用の多くを占めており、通勤時、通学時に利用しやすい情報提供等、効果的な利用促進に努める必要がある。 【評価 : A】 (定量的目標以上の輸送量を達成した路線)		
関係市町の意見		【桑名市】 ・当該路線は本市の南部に位置する郊外住宅地をカバーする主要路線である。 ・桑名西高校への通学利用者が多い。 【四日市市】 ・本市の北部エリアを運行し、桑名市へ至る数少ない路線であり、通学等の重要な公共交通手段となっている。利用実績は増加しているが、さらに利用しやすい路線となるよう、利用促進に努めるとともに、運行継続に向けた取り組みが必要である。		

※1 輸送量＝平均乗車密度[人キロ÷実車キロ]×運行回数

※2 平均乗車密度＝人キロ÷実車キロ

